

眼科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

眼科は、現在2人の常勤体制で診療を行っています。木曜を除く午前は外来診療を行い、火曜午前と木曜終日は手術室で手術、月水金の午後は蛍光眼底造影検査などの特殊検査や網膜光凝固術、術前のICなどを行っています。救急外来で眼科疾患に遭遇する機会も多く、それらに対応できるような教育、指導を行います。また当院では糖尿病や高血圧、腎疾患など重症全身疾患に関連した眼科疾患の患者を多く診療するため、将来眼科に進まない研修医でも眼科診療の必要性、重症性を学ぶ機会となり、将来の診療に役立つ研修を目指しています。眼科を志望する研修医には多くの白内障手術、硝子体手術に立ち会う機会があり、手術患者の診断から治療までのプロセスを学ぶ機会となります。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性	外来、病棟ともに眼科の診察、検査の組み立てを通して意思決定する
B-2医学知識と問題対応能力	眼科特有の診療の進め方ができる
B-3診療技能と患者ケア	患者に対して親身な態度で接する。視力障害者の行動制限を理解する
B-4コミュニケーション能力	患者、家族との面談を通してインフォームドコンセントを学ぶ
B-5チーム医療の実践	眼科のチーム医療を学ぶ、外来、病棟看護師、視機能訓練士と協調しチーム医療を展開する
B-6医療の質と安全管理	手術前のマーキングなどの安全管理を学ぶ
B-7社会における医療の実践	視機能改善がその後のQOLに大きく関わることを学び経験する
B-8科学的探究	遭遇した疾患について文献検索しレポートにまとめる
B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢	文献検索などを行い、学ぶ姿勢で臨む

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
時間					
8:30～8:40	外来カンファレンス	外来カンファレンス	外来カンファレンス	手術	外来カンファレンス
8:40～12:00	外来研修	外来研修	外来研修		外来研修
12:00～13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00～17:10	外来検査	手術	外来検査	手術	外来検査

病棟業務 指導医とともに適宜病棟回診を行い必要な検査、処置を指導医と共に実施する。他科からの往診依頼の患者を上級医とともに往診しその診察を行い診断、治療を行う。

手術 手術では助手を務める。豚眼でのウェットラボを企画し指導をうけ白内障手術について学ぶ。

カンファレンス

無し

その他 緊急時対応・学術活動等

無し

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中1症候)		
1	ショック	
2	体重減少・るい瘦	
3	発疹	
4	黄疸	
5	発熱	
6	もの忘れ	
7	頭痛	
8	めまい	
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	
11	視力障害	○ 視力の評価と視力障害の原因の診断
12	胸痛	
13	心停止	
14	呼吸困難	
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	
18	腹痛	
19	便通異常(下痢・便秘)	
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
25	興奮・せん妄	
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中0疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換						
移送						
皮膚消毒		○	○		○	○
外用薬の貼布・塗布		○	○		○	○
気道内吸引・ネブライザー						
静脈採血						
胃管の挿入と抜去						
尿道カテーテルの挿入と抜去						
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)						
中心静脈カテーテルの挿入)						
動脈血採血・動脈血)						
腰椎穿刺						
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血						
眼球に直接触れる治療		○	○		○	○
①気道確保						
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)						
③胸骨圧迫						
④圧迫止血法						
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)						
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)						
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法						
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理						
⑬局所麻酔法						
⑭創部消毒とガーゼ交換		○	○		○	○
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合		○	○		○	○
⑰軽度の外傷・熱傷の処置						
⑱気管挿管						
⑲除細動等						
検査手技の経験						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)						
心電図の記録						
超音波検査						
評価(Ev)						

研修医評価票を用いて、下記のとおり評価する。
A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。
B.資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。
C.基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。